

オンライン授業とその先にあるICTのつくる未来

加藤聡一 (日生連研究部)

(1) おもて(一人一台)

「一人一台端末及び高速大容量の通信ネットワーク」の全国一律のICT環境整備がGIGAスクールとして急速に進んでいる(文科省「GIGAスクール構想の実現について」https://www.next.go.jp/a_menu/other/index_00001.htm)。私の市では、先日、PE第7世代の導入と来年一月からの授業と家庭での使用開始の連絡があり、家庭の通信環境のアンケートがあった。宿題はiPadアプリでやることになりそうで、教師は出題や〇付けのたいへんさか

ら「解放」されるかもしれない。面白くて効果のあるアプリとその運用が子どもや保護者に「歓迎」されれば、塾、さらには学校の授業そのものが問われることになりそうだ。

10月の小学校実習では大きな変化は報告されなかったが、中学校では、生徒全員がiPad (mini) を持ち、音楽だと音階を視覚化するアプリを使うなど、情報端末を日常的に使う段階に入っているようだ。指導案もアプリにあわせて新しくつくっている。ノートもiPadでとるようなICT化が若い教師から進んでいる。大学では、コロナがあり、2020年度前期はほとんどの大学でオンライン授業がおこなわれた。実験や実技などから対面授業が再開されているが、オンラインスキルについては、前期の教員が使う段階から、学生が使いこなす段階に移りつつある。私の「教育方法論」でも「情報機器の操作」として学校の授業で活用

できるようスキルアップをはかっている。勤務大学は、Google Classroomを導入し、Meetでオンライン授業をしている。「ドキュメント」「YouTube」などGoogleのアプリを使う練習をしている。ドキュメントだと、共有して同時に編集する練習「Word (Microsoft) やPages (Apple) とファイル変換して3OSを行き来する練習などしている。後半はこれを使って「授業」することに進む予定だ。ある程度のスキルを持って学生が教職に就く意義は大きい。研修も「はじめしてみる」段階をとばして、次の段階からはじめられる。

みなさんの学校・自治体ではどうなっているだろうか。

(2) ウラ(社会変動)

GIGAスクールの「うら」では「Society 5.0」という大規模な社会改造・国家再編が進行している(内閣

府 https://www8.cao.go.jp/estp/society5_0/)。Society 5.0とは「サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会」とされている(図1)。

4月から小学校で全面実施の「学習指導要領」は、この構想に組み込まれた部分だということを意識したい。NITがドコモを完全子会社化する。株式会社公開買付け(TOB)という「株のマジック」によって、4兆円規模の巨額投資が可能になる(中日新聞、9月22日付)。菅政権の携帯電話料金引き下げ政策を可能にするだけでなく、Society 5.0実現の「予算」となる。黒船が来て討幕運動がはじまったことに匹敵する事件だと考える。

社会大変動は、政治・産業・教育の3つのエンジンが稼働した。

(3) 底(国家と資本)

この底には、アメリカと中国などの

「国家」、GAF A、BAT Hと呼ばれる「超巨大企業」(図2：中国系はファウエイのHを入れる<https://ameblo.jp/mongol-sky/entry-12425834187.html>)の激しいせめぎ合いがある。米司法省がGoogleを独占禁止法で提訴しているように(中日、10月21日付)、強い緊張を伴う合従連衡が繰り広げられている。ここに「日米豪印戦略対話(クアッド)」を重ねると日本の立ち位置が見えてくる。

Tというツール(道具)で、どういう社会・学校をつくるか、真剣に構想する議論を起こしたい。Society 5.0のなかみの検討はほとんど手つかずだ。あわせて、日々のICTを使った/使わない授業実践の中で、新しい可能性も模索していきたい。



図1(上)/図2(下)